



Global Knowledge®



# Cloud

グローバルナレッジのクラウド人材育成

# Training

「クラウドファースト」時代、  
「クラウド人材」をどう育てる？

クラウドの利用範囲は拡大し、大企業の新システムや基幹系システムにもクラウドを利用する事例が増加しています。事業の規模を問わず、システムのプラットフォームとしてまずクラウドを検討する「クラウドファースト」の流れは、ますます加速していきそうです。

このクラウド利用の潮流において本当に重要なのは、技術的革新ではなく、ITの「所有から利用へ」という考え方の変化(パラダイムシフト)が起こったことです。この変化は、ITエンジニアはもちろん、ビジネスユーザーに対しても、意識とスキルの「クラウドシフト」を促しています。

では、クラウドに関わる人材はどのように対応していくべきでしょうか。クラウドの活用、運用、提供に関わるそれぞれの立場で考えてみましょう。

# クラウドを作る、クラウドで創る、クラウドを使う……

## クラウド戦略の実現には、「クラウド人材」の育成が必要です

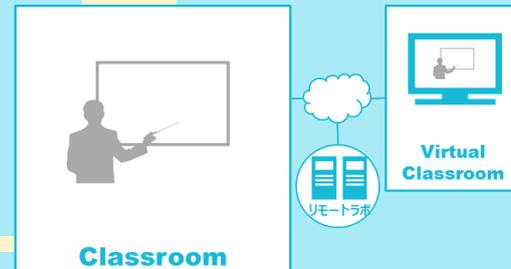
### ◆ユーザーからITプロフェッショナルまで、クラウドが、人材を変える

ユーザー企業	Sler／情報システム子会社	ネットワークサービス提供企業
<p><b>事業部門マネジャー／リーダー</b></p> <p>グローバル競争が激化する中、ビジネス環境の変化のスピードはますます加速しています。これからのビジネスの成長には、クラウドやビッグデータ、IoTをはじめとする最先端テクノロジーの活用が必須です。また、組織のマネジャーやリーダーには、変化に対して迅速に、戦略的に対応する力が求められます。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略立案力</li> <li>グローバルマインド</li> <li>データ分析・活用</li> </ul>	<p><b>プロジェクト・マネジャー</b></p> <p>クラウド化に伴う開発の高速化、新規小規模案件の増加はプロジェクトのリスクを増加させます。高速プロジェクトを成功させるには、プロジェクト・マネジャーが、想定されるリスクの芽をプロアクティブにつぶしていく必要があります。現場で発生する事態をあらかじめ想定し、備えるためには事前の研修が有効です。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>アジャイル</li> <li>リスク管理</li> <li>現場対応力</li> </ul>	<p><b>ネットワークエンジニア</b></p> <p>パブリック/プライベート/ハイブリッドクラウドなど、ネットワーク構築の選択肢が大幅に増え、機器の機能統合も進みました。ネットワークエンジニアには、ネットワークの専門的知識に加え、ストレージ、サーバー、仮想化、OSなど、スキルのカバレッジを広げ、インフラ全般の総合力をつけることが求められています。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>クロスプラットフォーム</li> <li>マルチレイヤー</li> <li>総合力</li> </ul>
<p><b>情報システム部</b></p> <p>クラウド利用が進み、情報システム部門の主な役割は、運用・保守からIT戦略・IT企画へとシフトしています。IT企画を担当する情報システム部門の担当者は、経営環境を正しく分析して課題を明らかにし、ITを効果的に活用した解決策を提案・提言できるスキルを身につけていくことが重要です。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>企画力</li> <li>提案力</li> <li>経営知識</li> </ul>	<p><b>設計／開発</b></p> <p>クラウド優先で検討する「クラウドファースト」の概念が浸透してきました。開発者には「全てを新規作成する」という考えから「既存サービスを組み合わせて使う」という発想への転換が求められています。また、開発初期に要件を確定することも現実的でなくなり、アジャイルな開発プロセスの導入も必要です。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>アジャイル</li> <li>効率化</li> <li>ツール活用</li> </ul>	<p><b>運用担当者</b></p> <p>クラウドサービスの多様化、複数のクラウドベンダーの利用、ハイブリッドクラウド化により、運用管理の煩雑化が課題になりつつあります。ITインフラの運用担当者には、「サーバー担当」や「ネットワーク担当」などの垣根を越え、横断的にシステム全体を見通せる知識とスキルが重要になっています。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>統合管理</li> <li>俯瞰的視点</li> <li>ITSM</li> </ul>

### スキルシフト・スキルの拡大で、「クラウド人材」を目指しましょう

#### TOPIC 増えています、学び方を組み合わせた研修事例

いつも、「(物理的・時間的に)研修会場へ行ける人」「選定された特定のメンバー」だけが「教室で開催する」研修で学んでいませんか？グローバルナレッジなら、集合研修のほか、オンラインライブ研修やeラーニング、Webinarなど学び方もいろいろ。クラウド人材育成での研修ご活用事例をご紹介します。各種社内研修の企画・運営方法は、グローバルナレッジにご相談ください。

<p>クラウド関連案件の課題を共有したい</p> <p>マネジャーを集めて実践的ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師がファシリテートしながら受講者同士でディスカッション</li> <li>ロールプレイで習熟度向上</li> </ul>	 <p><b>Classroom</b></p> <p>リモートラボ</p> <p>Virtual Classroom</p>	<p>支社勤務者の学習機会が少ない</p> <p>会場+オンラインのハイブリッド研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本社社員は研修会場で受講</li> <li>支社社員はオンラインで同時受講</li> <li>実機演習はリモートラボを使用</li> </ul>
<p>新製品・新サービスの理解度が低い</p> <p>製品・サービス説明会を録画視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明会を会場からライブ配信</li> <li>ライブラリから録画で視聴</li> <li>視聴履歴を学習時間として考課</li> </ul>	 <p>Webinar</p> <p>e-Learning</p> <p>Test Enquete</p> <p>LMS 研修管理/コンテンツ配信</p>	<p>全社員に「クラウド」の概念を浸透させたい</p> <p>eラーニング+テストの全社研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>eラーニングを指定期間中に受講</li> <li>確認テスト合格が修了条件</li> <li>全社員の進捗をLMSで管理</li> </ul>

# 「クラウド人材」になる!クラウド関連スキルはまず、これを学ぶ

## ◆クラウドの基本を押さえた上で、活用にはITSMの知識とIT企画力が重要に

クラウドの基礎的な概念、メリット・デメリット、セキュリティリスクを理解した上でクラウドを活用すれば、クラウドの導入効果がより高まります。

また、クラウドはITをサービスとして管理するため、ITサービスマネジメントの概念を理解することも大切です。

クラウドの価値はそのスピード感と柔軟性です。ビジネス視点でITを活用できる「IT企画力」を養い、「攻めのIT経営」を目指しましょう。

### ●クラウドを最大限活用するトレーニング例

eラーニング 集合研修

クラウド	セキュリティ	ITサービスマネジメント	IT企画
クラウド導入のためのセキュリティ概要		アポロ13号 ～ミッションITSM～	RFP作成と提案評価
クラウドコンピューティング概要	情報セキュリティ講座 (中級編)	マネジャーのための ITサービスマネジメントと チームマネジメント	成果につなげる IT企画提案 実践編
クラウドコンピューティングの要諦	情報セキュリティ講座 (初級編)	ITサービスマネジメント とは何か?	成果につなげる IT企画提案 基礎編

## ◆ベストプラクティスの集積、パブリッククラウドのサービスを学ぶ

パブリッククラウドの選定には「どのサービスが一番カスタマイズが少なく自社のシステムに適用するのか」「他のクラウドサービスとの相互運用が可能か」「移行が容易なプラットフォームはどれか」など、最適なサービスを選択し、付加価値をつけて活用できる知識とスキルが求められます。

1つのサービスに精通することで、他との違いを明確に示すことが可能になります。たとえば、AWSの後、Microsoft Azureなど他のクラウドサービスを修得すると効率よく学んでいけます。

### ●パブリッククラウド関連トレーニングラインナップ

SaaS	AWS	Office 365	Salesforce .com
PaaS		Microsoft Azure	Google Cloud Platform
IaaS			Heroku

## ◆ハイブリッドクラウドやITインフラ総合力を高める

ITシステムとインフラの形態が大きく変化する今、クラウドや社内インフラの特徴を把握して最適なシステムを構築するには、システム全体を俯瞰できるエンジニアが必要です。

「ITインフラ構築実践」コースでは、実際の企業ITインフラを想定し、ストレージ、ネットワーク、OS、仮想化、セキュリティなどの要素を同時に扱います。現場に近いシステム環境で実機演習を行い、トラブルの切り分けや解決方法を学ぶことで、多角的な視点を修得できます。

### ●総合力を高めるITインフラトレーニングラインナップ

	ストレージ	ネットワーク	OS	仮想化	セキュリティ
上級	ITインフラ構築実践 上級編(一社向け)				
中級	NetApp	Cisco	Linux	Microsoft	VMware
	ITインフラ構築実践 2 ～可用性、拡張性を考慮したITインフラを構築する～				
初級	ITインフラ構築実践 1 ～要素技術を横断的に捉え、ITインフラを構築する～				

認定トレーニングの詳細はWebで▶ <http://gknet.jp/awsct>

## ●AWS認定トレーニングとは

AWSより認定を受け、AWSの技術とソリューションに精通した講師が実施するのがAWS認定トレーニングです。グローバルナレッジは、AWS認定資格プログラムに対応したトレーニングを提供しています。資格取得を目指す方はもちろん、実務に必要なスキルを身につけたい方にも最適です。

## ●国内で提供中のAWS認定資格

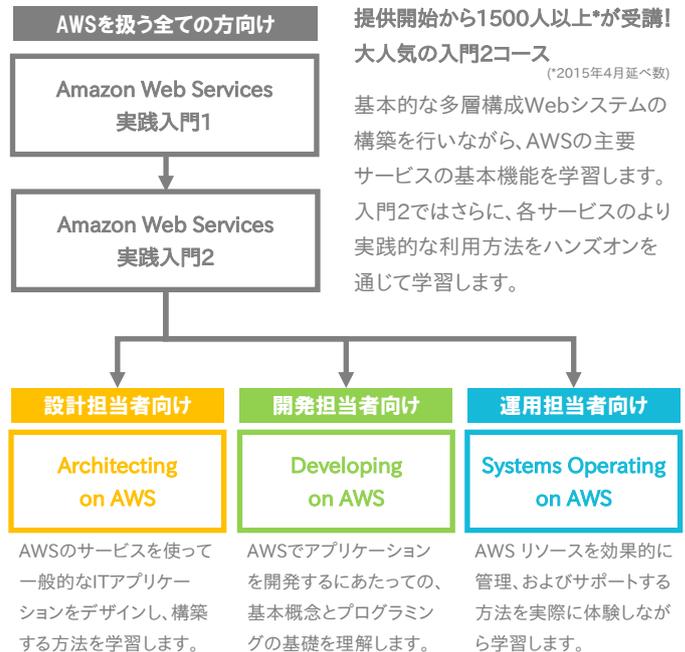
AWS認定資格を取得すれば、AWSサービスに関するスキルを保持していることを証明できます。

現在、3種類の専門分野のAWS認定資格があります。

	設計担当者向け	開発担当者向け	運用担当者向け
中級	ソリューションアーキテクト —プロフェッショナル	DevOpsエンジニア —プロフェッショナル(*)	
初級	ソリューションアーキテクト —アソシエイト	デベロッパー —アソシエイト	SysOps アドミニストレーター —アソシエイト

\*DevOpsエンジニア-プロフェッショナル試験は、2015年6月より国内で受験可能になります。

## ●AWS認定トレーニングラインナップ



## 「そもそもクラウドがよくわからない…」という方にオススメ、大手企業の全社研修に採用されたeラーニング教材 クラウドコンピューティングの要諦 ～スマホで学べるクラウドの必須知識～

【プロダクトコード】 NFX0008G 【学習時間】 3時間 【受講可能期間】 90日間 【価格(税抜)】 ¥7,000

### ●クラウドコンピューティングの背景と今がわかる

クラウドの背景	
関連技術	
ビジネスの変化	

「クラウドってよくわからない」「クラウドが、自分のビジネスにどう関係してくるのかわからない」という方に、ぜひ学んでいただきたいコンパクトな教材です。

### ●スマートフォンに対応

短時間で	
スキマ時間で	
効率的に	

学習項目が細分化されているので、必要な箇所を必要な分だけ短時間で効率的に学習できます。通勤などのスキマ時間で学習しやすい構成です。

## About Us

グローバルナレッジはビジネス&ITトレーニングのリーディングカンパニーです

### Network & Agility

- ・世界有数のベンダーとの強固なパートナーシップ
- ・世界のGlobal Knowledge
- ・AMAサービスを国内唯一提供

### Trust

- ・お取引企業数 1500社以上
- ・リピート率 90%
- ・独立系教育ベンダー
- ・2015年、創業から20周年

### Know-How

- ・多数のオリジナルコース
- ・柔軟なカスタマイズ
- ・多様なデリバリースタイル
- ・大規模案件対応力

### Resource & Logistics

- ・経験豊富なインストラクター
- ・充実の機材とファシリティ
- ・研修運営力
- ・研修管理システム